

## 暗期中断による大葉シソの抽台防止

飯田久雄・細山田芳博・高橋英生 (宮崎県総合農業試験場)

## Hisao IIDA, Yoshihiro HOSOYAMADA and Hideo TAKAHASHI: Inhibition of Flower Stalk Development in "Perilla frutescens" with Night Break Lighting

大葉シソは年間をとおしての需要があり、周年栽培が行われている。このため低温期は保温や加温が行われるほか、日長の短い時期は花芽の分化を防ぐため、電照による日長の延長が行われている。この電照は、10 a 当たり40~60Wの電灯を80個前後点灯し、一般には8月中旬から翌年の5月上旬までの期間継続して行われ、電照時間は、日没から夜半までの長時間である。シソはキクなどに比べ照度は低くてよいが(齊藤 1975)、電照の期間と時間が長いと、多くの経費を要する。このため、夜半の暗期中断による抽台防止効果について検討した。

## 1. 材料及び方法

供試材料は県内で栽培されている大葉シソの2系統。(試験1)では8月8日播種、8月24日に鉢上げして育苗、9月25日に定植し、第1表に示す区を設けた。電照は、育苗期及び本圃を通じて全期間同じ処理とし、暗期中断処理は0時を中心に1~3時間の電照を行った。電照の照度は頂葉付近で32~58Lux。慣行区は日没後の電照により16時間日長とした。(試験2)は定植時の苗の前歴とその後の処理との関係を

明らかにするため、2月4日に播種、3月1日に鉢上げして育苗、3月24日に定植して、第2表に示す区を設けた。

## 2. 結果

無電照区では9月上旬に発らいがみられ、これに対して、電照を行った区は、慣行電照区、暗期中断電照の各区とも、発らい、変形葉の発生はみられなかった。莖葉の生育、収穫葉数についてみると、主枝長は慣行電照区に比べ暗期中断電照の各区はやや短かったが、電照時間による差は小さかった。側枝の発生や葉の収量にも明かな差はみられず、慣行電照区に比べ、暗期中断電照区がまた暗期中断電照のなかで電照時間が短い区が生育が劣ることはみられなかった。

(試験2)では以上の結果の確認と、さらに短い暗期中断による抽台防止、育苗期と定植後の光条件が異なる場合の暗期中断の影響を見た。この結果、16時間日長で育苗した苗を用いても、0.5から2時間の暗期中断で抽台を抑えることが可能であり、生育や収量の低下は認められなかった。

第1表 電照法と大葉シソの生育、収量及び抽台

区名	主枝長	主枝節数	子枝数	孫枝数	採葉数	抽台率	変形葉発生
16時間日長区	75.5cm	16.5	17.3	14.5	392	0	-
1時間暗期中断区	70.8	17.1	17.2	13.8	394	0	-
2時間暗期中断区	68.4	14.9	17.9	16.0	382	0	-
3時間暗期中断区	71.4	16.6	18.4	11.8	368	0	-
無電照区	28.4※	7.4			0	100	+

第2表 育苗期、本圃の電照法と生育及び収量

区名		主枝長	主枝節数	採葉数	抽台率
育苗期	定植後				
16時間日長	16時間日長	68.8cm	15.8	384	0
	0.5時間暗期中断	68.5	15.0	370	0
	1.0時間暗期中断	67.0	15.3	373	0
	2.0時間暗期中断	64.5	14.8	388	0
	無電照	38.3※	7.7	0	100

注) ※主枝長は抽台時の数値である。